

# 平成27年度市民提案型協働事業 事業概要

資料2

No.	事業名	事業実施者	事業概要	付帯条件の有無	実施結果(概要)	総事業費・補助金額の推移(概要)	協働の効果・課題等(概要)
1	府中市に冒険遊び場を～子どもが遊びこめる環境づくりとそれを支える市民の育成～	【提案団体】 NPO法人野外遊び喜び総合研究所  【担当課】 児童青少年課	子どもが自由に遊べる冒険遊び場や、遊びの重要性を伝える講演会、スタッフ向けの救急講習を実施する。	●リスク管理について、担当課と十分に協議を行った上で、事業を実施すること。  ●事業費を精査すること。特に、報償費については、市内のリソースを活用するなど、より一層協働の視点を取り入れるよう工夫すること。	●冒険遊び場イベント 全3回実施(総参加者数:300人)  ●基調講演 参加者数:36人  ●救急救命講習 参加者数:10人  ●調査 冒険遊び場イベントに参加した子どもとその保護者に対して実施したアンケートの分析結果。	【当初予定】 総事業費:672,400円 補助金額:334,700円  【実績額】 総事業費:612,771円 減 補助金額:275,909円 減  当初予算には計上されていなかった「通信運搬費」に係る経費が発生したものの、「印刷製本費」が当初予算に比べ大幅に減額したことから、 <b>58,791円の補助金を返還</b> 。	【効果】 団体の自主事業の際にはなかった「講演会」を新たに実施することができた。  【課題】 団体及び市担当課との役割分担及び連携(より良い関係性の構築)
2	命の讃歌コンサート	【提案団体】 命の讃歌コンサートの会  【担当課】 政策課	精神障害者や震災被災者、子供、老人など、多様な団体が同じ1つのステージにたち、命の大切さ、生きる事の素晴らしさを歌とともに訴えるコンサートを実施する。	事業費を精査すること。特に、報償費を縮小できるよう工夫すること。	●命の讃歌コンサート 参加者数:353人	【当初予定】 総事業費:780,000円 補助金額:367,500円  【実績額】 総事業費:825,000円 増 補助金額:367,500円  「謝礼金」及び「使用料・賃借料」が増額したことから、補助金の返還は無し。	【効果】 市施設へのチラシ・ポスターの設置や、市ツイッターでの周知など、市の有する広報媒体を使用した効果的なPRをすることができた。  【課題】 事業決定後から実施日までの期間が短く、市が企画段階から関わることができなかったため、協働による効果が少なくなってしまった。
3	子育て応援イベント「ハッピー子育て～わが子のチカラを信じよう～」	【提案団体】 ポルトポヌール  【担当課】 子育て支援課	子育て中の親の悩みを共有・解決するためのワークショップと講演会を実施する。	事業費を精査すること。特に、報償費や使用料については、事業の継続・発展に向けて、予算の適当性の向上を図ることができるよう、担当課と協議の上、工夫をすること。	●子育て応援イベント 全2回実施 総参加者数:41人	【当初予定】 総事業費:221,654円 補助金額:109,477円  【実績額】 総事業費:195,551円 減 補助金額:93,800円 減  事業規模の縮小により、「消耗品費」及び「印刷製本費」が減額したこと、当初想定していた会場使用料が対象外経費となり、「使用料・賃借料」が減額したことから、 <b>15,677円の補助金を返還</b> 。	【効果】 集客に当たって、市のメール配信やちゅうバスへのチラシ掲示、プレスリリースなど、市の有する広報媒体を使用した効果的なPRをすることができた。  【課題】 付帯条件に伴う実施回数の変更によって、団体の負担が増加してしまった。 日中就労している団体と協働で事業を実施するに当たり、打合せ時間等に配慮する必要があった。
4	超高齢社会の街づくりフェスタ2015	【提案団体】 NPO法人臨床研修支援協議会  【担当課】 高齢者支援課	市民や医療従事者など、多様な人同士のつながりを目的とした学習会や交流会の実施や、ミニ講演会やアトラクションを体験できるフェスタを実施する。	—	●Call & Push!(心肺蘇生講習会) 参加者数:30人  ●超高齢社会のまちづくりフェスタ アトラクション参加者数:700人 スタッフ数:130人(医療・介護専門職等)  ●緩和ケア普及啓発事業 製作物配付者数:1,300人 寸劇来場者数:100人  ●多摩の医療健康増進フォーラム 参加者数:60人	【当初予定】 総事業費:764,313円 補助金額:382,156円  【実績額】 総事業費:773,282円 増 補助金額:382,156円  事業規模の拡大により、「消耗品費」及び「印刷製本費」が大幅に増額したものの、その他の経費で調整を行い、概ね当初予算の範囲内で実施したことから、補助金の返還は無し。	【効果】 事業の実施に当たり、医療や介護等の福祉に関わる関係者から大きな協力を得ることができ、関係機関とのネットワークが広がった。  【課題】 複数の関係者との連絡調整において、難しい面があった。